



弘沢の滝ふるさと夏まつり

弘沢の滝ふるさと夏まつりでは、友澤、高野、中澤の3人が、桧原太鼓・深山会のメンバーとして太鼓を叩かせてもらいました！いろいろな方に「かっこよかったよ！」と声をかけてもらい、手の皮がむけるほど練習した甲斐がありました！来年はもっとうまくできるように練習します！（中澤）



湯久保の獅子舞

ささらの一員として参加させてもらいました！最初の演目「宮参り」が行われると、突然雷と土砂降りの雨が…！湯久保から望める山の上からの絶景と相まって、思わず神さまの存在を感じてしまうような、神秘的な時間でした。まだ小さな子どもたちも獅子舞やささらとして数多く参加していて、子どもたちが一生懸命に伝統を継いでいく姿はとてもまぶしかったです。（高野）



しきさんば 小沢の式三番

小沢睦会の一員として式三番の地謡をやらせていただきました！はじめは手探りでしたが練習を重ねるごとに曲や舞のリズムやテンポがわかるようになり楽しかったです。また、舞台の準備では照明の位置を変更してより良い演出にしようと話し合う会の皆さんの姿が印象的でした。小沢式三番がただ受け継がれているのではなく、神事の伝承とともに代々、式三番を継承しながら、今も歴史を紡ぎ続けている地元の若者の姿を、共に演じることができました。また来年が楽しみです！（友澤）



令和5年8月23日（練習10日目）



村内各地の



体験記



地域おこし協力隊では、自分たちの住んでいる地区のお祭りに限らず、「人手がほしい」と声をかけていただいた地区のお祭りにも参加させていただきました。

「お祭りを経験しないと、檜原村を知ったことにはならない」と言われてきた私たちにとって、待ちに待った初めてのお祭り。そんなお祭りの体験記をお届けします！

藤倉の獅子舞

私は4地区でささら（花笠）をやらせてもらいましたが、藤倉が一番難しかったかも…！ささらは基本的に四隅から動かないのですが、藤倉では演目中に対角線上にいるささら同士が歩いてすれ違う「すりちがい」という演目もありました。獅子舞は太鼓の音が他の地区と比べて大きい印象があり、迫力満点でした！演目の間の中入れではガーナから来日した方によるアフリカンドラムのパフォーマンスもあり、休憩中も楽しそうな声が会場内に響いているのが印象的でした^^（高野）



上元郷・本宿の神田囃子

協力隊に着任して2年間、コロナの影響でお祭りは神事のみでした。そのため、移住3年目にして囃子を叩くのは初めてでした。

7月中旬、練習が始まり地域の子供たちに混じってリズムや叩き方の基礎から教えていただきました。見るのと叩くのとでは大違い「だんだん速くなっているよ！」と助言をいただきながら練習を重ねました。

お祭りは宵宮と本宮の2日間、山車で地区を練り歩きました。各所での上元郷と本宿の競り合いは、とても迫力がありました！村外にいる方も帰省され、子どもも大人も皆で盛り上がりました。（齊藤）



人里の獅子舞

三拍子の弟獅子をやらせていただきました！練習の時から皆さんに丁寧に教えていただき、楽しく本番を迎えることができました！小さい頃に見たことはありませんでしたが、やってみると獅子頭が重たくて、フラフラしてしまいました。周りの先輩方の獅子舞はかっこよく、首の角度や動かし方、手や足の動きに細部までこだわっていて、私も出来るようになりたいと感じました！来年は先輩方のように上手くなれるようにもっと練習します!!（中澤）



数馬の獅子舞・太神楽

数馬では、太神楽と獅子舞の両方が、同じ日に九頭龍神社に奉納されます。太神楽には思わず笑ってしまうような愉快な演目もあり、見ていてとても楽しかったです。獅子舞の「太刀がかり」という演目では、太刀使いが「ヤイハー！」「ヤーハ！」と大きな声を上げるシーンもあり、ダイナミックで見ているととても引き込まれました。

九頭龍神社までの2km弱を練り歩く道中、行列にもささらとして参加させてもらい、都道に行くバイクや車の人々にカメラを向けられ、ちょっとした有名人気分を味わえました！（高野）



参加した感想

それぞれの地区の曲や振りつけを覚えるのは少し大変でもありましたが、大昔から口伝で伝えられてきた芸能に触れ、自分もその一端を担えることに、身体がうずうずしてしまうような嬉しさと誇らしさを感じました。

また、練習でも本番でも、地元の方々が皆さん本当に楽しそうに、そして真剣にお祭りに取り組んでいるのがとても印象的でした。

年に一度の一大プロジェクトに、地区のみんなで真剣に取り組む。そんな営みが、地区としての団結力や、地区の人々の絆を保つことに大きな役割を果たしてきたのだと思うと、こうした郷土芸能を、これからも絶対に絶やしてはいけないなと思いました。

様々なお祭りに快く迎え入れてくださり、本当にありがとうございました！来年もぜひ、よろしくお祈りします。（高野）

本わさび 林間土壌栽培はじめました！しかし…



マカロニ状態… ↓ 頭を埋めて むさぼるカナブン

予期せぬ敵が…
以前村広報で活動報告しましたわさびの林間試験栽培の準備が整い、8月初旬より栽培を開始しました！しかし300株の苗を植え付けて5日後、畑に異変が…畑もわさびも穴だらけ…あ然としながら畑を見ていると、犯人がいました。まさに現行犯。

なぜ林間土壌栽培？
従来のわさび栽培は沢の水を用いた栽培が主流ですが、水や土砂の災害リスクと隣合わせで、そのリスクをなくすためには高額の初期投資が必要になります。それに比べ、林間での土壌栽培はこう

見事なまでにわさびの芯だけを食べられ、半分以上が枯れました…(泣)
この数日後に注文していた防虫ネットが届くも時すでに遅し。一筋縄ではいかないわさびの生育環境が間伐された林間だと想定外すぎる犯人の姿に思わず笑ってしまいました。とはいえ、わさびはアブラナ科で虫害も多く、冬でも葉があるため獣害にも晒されます。しかしその課題をクリアし栽培ができれば、檜原村の様な中山間地域の森林活用と農業振興において何か役立てるのではないかと考え、取り組んでいます。(友澤)



時坂峠のすぐ近くで！

本が読める休憩所をつくっています



かつて「そば処みちこ」として親しまれていた、時坂峠近くにある古民家の敷地内で、本が読める休憩所をつくっています。村内に住む、古民家を購入した方から「敷地内の小屋を一緒に活用しよう」とお声かけいただき、始まった企画です。母屋は400年以上の歴史がある立派な建物ですが、横にある小屋は数十年前に建てられたもので、小ぢんまりした、落ち着く空間です。

読む贅沢な時間を過ごせる場所にしよう！と、手作業で改修を進めました。そしてなんと！今回使用した木材はすべて、村内の製材所や工務店の方々からお譲りいただいた廃材です。木材をご提供くださった皆さん、本当にありがとうございます。



小屋の外観



小屋内部の様子

現在は、私や古民家の所有者の方の本に加え、村民の方々から本を寄贈していただき、200冊以上の本が並んでいます。小屋は浅間嶺への登山道に面しており、登山客の方も多く通りがかります。今後は、登山客向けの飲み物や軽食の販売なども視野に入れつつ、どのような場所にするか、試行錯誤をしていく予定です。皆さんもぜひ、遊びにきてください！(高野)

起業の準備をはじめました！



↑彼が後藤です！

8月に高校時代の友人(後藤 創)が檜原村に引越してきました。今後一緒に、村民の皆さんの生活を手助けできるような事業をやりたいと思っています。

引越して来てすぐに、消防団、お祭りの練習、検原太鼓に入ってくれました！
彼は今年の7月末に免許を取ったばかりで、暇が



ユニフォームだけできました！(笑)

あれば運転の練習をしたいと思います！先日は、軽トラックを受け取るために、往復約100km運転して、大阪府の枚方市まで行ってきました！最初は助手席に乗っていると生きた心地がしませんでした(笑)。ですが、今では少しずつ上達してきています！
私たちがやるうとしていくことは、主に生活支援の事業です。買い物代行を中心として、健康管理や健康相談、参加者の方と乗り合いで買い物に出かけたりと、お役に立てればと思います。買い物代行は、買い物をしてくるお店を選んでいただけたり、特に希望が無ければ、村内のお店を中心に買い物をしてお届けします！健康相談では、私が7年間リハビリの仕事をしていたので、肩・腰・膝などの痛みの相談や簡単なリハビリなどできたらと思います。今年度中にはスタートしたいと思っていますので、何かご希望がありましたら、中澤までご連絡ください！(中澤)

地域おこし協力隊へのご依頼は
檜原村役場 むらづくり推進係へ
☎042-519-9556

協力隊 Facebook は
QRコードから！



竹ワークショップに向けて



竹細工に使う主な道具
身近なものが多い

私が竹に興味をもつようになったのは、檜原村で竹を使った門松作りを教わっていたことや、キャンプで竹筒ご飯作りを体験したことがきっかけです。成長が早い竹は、昔から私たちの生活に身近な素材として、あらゆる道具に活用されてきました。私たちに身近であった要因は、筍として食卓に並ぶ他、比較的少ない道具で加工できることもあったのではないのでしょうか。

現在、多くの製品がプラスチック素材に置き換わっています。プラスチックは安価で大量生産できる一方で、石油由来であり、海洋マイクロプラスチックの問題など処理方法が問題視されています。そこで身近に活用されてきた、竹がもつ味わいや昔からの生活の知恵は、持続可能なものとして将来の生活につながるものと考えています。



竹筒ご飯 竹灯籠 シャボン玉
ぶんぶんごま 竹ひご飾り 竹かご

今後、檜原村の資源を活用し、持続可能な暮らしを提案・発信する「ひのはらサステナブル」という名称で活動する中で、竹を使ったワークショップを開催する予定です。(齊藤)

編集後記

協力隊が4月に新体制になり、半年が経ちました。新しい風を吹き込んでくれる中澤隊員と共に、4人それぞれが自身の分野から檜原村の地域おこしにどのように携われるかを日々の活動を通し模索しています。齊藤隊員の任期も残りわずかなので、思い出に残るような活動もしたいと思います！(友澤)



地域おこし協力隊メンバー

- なかざわ 中澤
- だいき 大樹
- たかの 高野
- ゆうみ 優海
- さいとう 齊藤
- はやと 隼人
- ともさわ 友澤
- ゆうき 勇紀

村内で見かけたら、お声かけください！